

責任者	文学研究科委員長	作成部局	文学研究科
-----	----------	------	-------

### 2021年度に向けた教育研究目標

#### 【A票:教育研究目標1】

(タイトル)  
課程博士育成の促進と学位取得率の安定化

(狙い内容)  
審査制度を持つ学協会誌への論文投稿や国内外で開催される学会・シンポジウムにおける発表に結びつくような教育指導体制の充実化を図るとともに、現在各領域が提示している「博士学位論文提出要件」についての検討も不断に行いながら、優れた研究成果を携えた博士学位取得者を安定的かつ継続的に輩出していくことをめざす。

#### 1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

後期課程における収容定員に対する充足率がほぼ現状を維持する中において、博士学位取得率に関してみれば現状を上回る指数が出ている。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

#### 2. 達成度評価

評価指標	博士学位の取得率を上げる。	評価尺度	博士課程後期課程3年生以上の人数を基準とし、 A:博士学位取得率が前年比20%アップ B:博士学位取得率が前年比15%アップ C:博士学位取得率が前年比10%アップ	変更有無 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A:博士学位取得率が基準比20%アップ B:博士学位取得率が基準比15%アップ C:博士学位取得率が基準比10%アップ D:博士学位取得率基準の設定	

#### 3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		課題の明確化	Dをめざす	Cをめざす	Cをめざす	Bをめざす	Bをめざす	Aをめざす	
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> D					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 評価基準の検討		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 評価基準の設定					

【2016年度の進捗状況について】←

過去の博士学位取得率の傾向を分析し、評価尺度の前提となる妥当な基準を設定した。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

### 2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

#### <評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 予定通りの進捗状況である。(B)
- ・ 順調に進展しています。(D)
- ・ 過去の傾向を分析した上で評価基準を設定したとありますが、具体的に「博士学士取得率基準」はどのように設定されたのでしょうか?取組みの進捗を確認する上で、もう少し詳細な記述が望まれます。(G)
- ・ 博士学位の取得率を上げるという教育研究目標との関連で、具体的な成果にも言及され、適切な自己評価がなされている。(H)

**【A票:教育研究目標2】**

(タイトル)  
研究支援体制のさらなる充実化

(狙い内容)  
文学研究科が2008年度よりスタートさせた文学研究科内「研究支援制度」の見直しと点検を行い、この制度がより多くの院生に向かって開かれるものとなり、そのことによって院生の研究活動がより活発化していくことをめざす。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

「研究支援制度」の補助金を支給する対象となる研究種目(項目)や申請方法を見直すことにより、多くの院生にとってこの制度が活用しやすくなるとともに、外部との競争関係の中で自身の研究能力や専門的スキルを伸ばさせていく機会や場が増えることも含めて、研究活動が多様化したものとなっていく。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	研究支援体制の広範で柔軟な運用をめざす。	評価尺度	A : 運用 B : 構築完了 C : 準備段階 D : 検討段階	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄>	有・無

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		課題の明確化	Aをめざす	Aをめざす	Aをめざす	Aをめざす	Aをめざす	Aをめざす	有・無
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> C	実績 C	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標>					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 課題の明確化		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 準備中					

【2016年度の進捗状況について】←

制度を周知し応募者を増やす努力をした。執行部において検討課題を抽出中。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・さらなる改善が期待されます。(D)
- ・重要な計画であり、評価指標も適切です。(F)
- ・今後取組みを進展させるためには、課題を明確にして取組みを進めることが望まれます。(G)
- ・研究支援体制のさらなる充実化という教育研究目標について、具体的に言及され、適切な自己評価がなされている。(H)

**【A票:教育研究目標3】**

(タイトル)  
 教員・院生間の学術交流の活性化と各領域の知の結集化

(狙い内容)  
 大学院指導教員と大学院生とが一丸となって高い学識を持った集団に育っていくために、教員・院生が一堂に会する研究発表会をスタートさせ軌道に乗せていくとともに、前期課程の授業においては各領域の知を結集して現代の学問的課題に応え得る「文学研究科特殊講義」の見直しと定着化を図る。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

教員と院生とによる合同研究発表会が年2回定期的実施され、あわせて「文学研究科特殊講義」が春・秋学期に1講ずつ開講されることによって、文学研究科の教員・院生間での学術的交流が促進され、各々の学知の広がりや研究意欲の高まりについての相互関心が一層増していく。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	合同研究発表会の実現 「文学研究科特殊講義」の実質的運用	評価尺度	A:構築完了・運用 B:試行段階 C:検討・準備段階 D:	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		課題の明確化	Dをめざす	Cをめざす	Cをめざす	Bをめざす	Bをめざす	Aをめざす	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> C	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> C					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 準備中		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 準備中					

【2016年度の進捗状況について】 ←

準備中

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？ → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・概ね進捗は良好である。(B)
- ・順調に進展しています。(D)
- ・2016年度の進捗状況では「準備中」とありますが、2016年度は具体的どのように取組みが進められたのか記述からは不明です。PDCAサイクルの状況を確認する上でも、具体的な取組み内容の記述が望まれます。(G)
- ・教員・院生間の学術交流の活性化と各領域の知の結集化という教育研究目標について、具体的に言及され、適切な自己評価がなされている。(H)